

# 通信小海

「愛の特質」

牧師 荒瀬 実  
あらいもみ まこと

聖書の教える愛の特質は、以下の通りです。「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。」

私たちのうちに、この愛の特質が見られるでしょうか。「すべてをがまんし」とは「すべてを覆い」とも訳せる言葉です。愛は、人の悪をあばきたてません。むしろ覆い包む深い寛容を示すものです。「すべてを信じ」は神様への信頼ゆえに、どんな時でも信じるこ

「今月のみことば」  
「すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。」

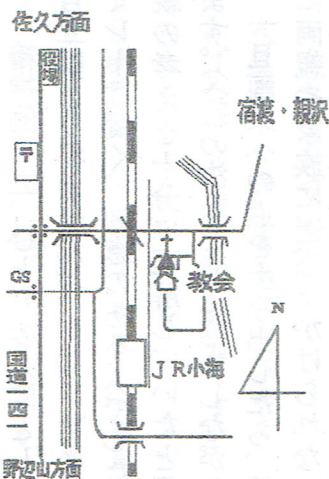
「コリント 13:7」

とです。愛は人を信頼するものです。また、愛は「すべてを期待し」ます。一度失敗したからと言って失格者の烙印を押ししたりしません。人が神様にあつて変えられる日を期待し続けるのです。そして最後に、愛は「すべてを耐え忍ぶ」と教えています。「耐える」とは、「二つの場所に踏み留まること」を意味しています。人を信頼し、その人の成長や変化を期待し続ける思いに留まることなのです。

つまり、イエス様が私たちに対して実際にしてくださっていることに、愛の特質が具体的に表されているのです。イエス様は、私たちの罪をとがめるより先に、ご自分の身に負って赦してくださいました。また、イエス様は、私たちの成長を期待し続け、何度でもやり直すチャンスを与えてくださるお

日本同盟基督教団 小海キリスト教会  
南佐久郡小海町大字小海四三五・二七  
〒三八四・二一〇二 TEL 0267・88・7169  
〒振替 00530・0・61683

## 見晴台の教会へどうぞ



## 集会あんない

日曜日 朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

\*海尻・川上で家庭集会を実施。詳細は教会HPでご確認ください。\*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

\*初めての方も遠慮なくお越しください。

(金) 夕8:00から聖書の学びをしております。



方です。私たちに悔い改めるチャンスを与え、イエス様から受けた愛を実践する者となることを期待してください。のです。

「すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。」 私たちは、自分の言葉や態度を顧みる時、聖書が教えるこの愛から遠い者であることを知らされず。なぜなら、いつも自分中心に物事を捉え、怒ったり疑ったり、落胆したり諦めたりして、人を愛することをせず、自分を守り愛そうとするからです。

私たちのうちにない愛の特質がイエス様のうちにはあります。イエス様を信じる時、イエス様が愛してください。この愛の特質が私たちにも与えられ、この愛の特質に基づいた行動の変容が見えてくるようになるのです。出発はまず、あなたがそのままの姿でイエス様に愛されていることを知ることです。



## 連載

### 信仰の眼で読み解く絵画



岡山 敦彦 【著】

#### 第二章 ミレー

〈農民画家としての信仰の生涯〉

④

農家にとって、成長した子どもは貴重な労働力でもありました。しかし、子どもは親の所有物ではない。神様から預かったもの、委ねられたものである。たとえ父親といえども、子どもの将来の職業の選択権を奪うことはできない。ミレーの父親はそのような考えを持っていたのです。

またミレーの父親は、生きることに自立して生きることの厳しさも熟知している人でした。絵画を描くことが少し上手だからと言って、それで立派な画家として成功する保証は何もありません。ましてや将来、結婚をして

妻や子どもを養うことは、長男としてこの家を継ぐよりもっと厳しいことは百も承知のことでした。しかし、父親はミレーの夢と将来を奪うことはできないと考えたのです。

私は、ひとりの人として自立して生きるとはどのようなことかについて考えることがあります。自分の好きなことをして生きることが自立と考えたなら、大間違いと思います。まず経済的な自立なくして、精神的自立、ひとりの人間としての自立はあり得ません。

ミレーは賢く、知恵のある人でした。父親の考えを十分に理解していたと思います。父親の決断と愛に感謝しながら、一旦画家への道を歩み出したなら、絶対に両親や家族に迷惑をかけられないと深く自らの心に言い聞かせていたことでしょう。

一八三三年、ミレーが十九歳の時、彼の故郷のグリユシーから約十六キロメートル離れたシェルブールに父と一緒に出かけ、画家修業が始まりました。

〈続く〉



## ニチニチソウ

## 日日草・日々想



「生き方」

先月、中学校の同窓会がありました。「20th Anniversary」  
「ソ」と書かれている案内を見た時、  
過ぎた時間の重みが押し寄せてきて、  
「二十年かあ」と思わずため息をこぼしてしまいました。

十代から二十代を駆け抜け、三十代半ば。変化が多い中にも、それぞれに「自分の生きる道」を見つけて歩み始めた年頃かもしれません。

志を果たして、作家やパイロットとして活躍している友人には、本当に夢を叶えたんだなあと感じるばかり。中には挫折を経験したり、希望通りでない人生を送っている人もいますが、

思い描いた通りではない自分と現実を受け入れ、今を精一杯生きている姿に、むしろ「頑張っているんだなあ」と励まされたことでした。

私は：と言えば、恐らく周りからすると相当意外な人生を送っているのかもしれない。当然続いているだろうと思われた仕事を退職していることに、「もったいない！なんぞ辞めちゃったの？」と質問され、「ダンナがボクシ??？」と不思議がられることづくめの再会でした。

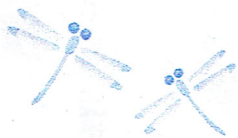
「生き方」なのだ改めて思います。聖書には「しかし、私にとつて得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いつさいのことを損と思つています。」というパウロの信仰告白が記されています。

ここまで強く言い切れるかと聞かれたら、まだまだ頼りないのが私の信仰ですが、少なくとも、これまでの歩みの中

で手放すことを選択したものは、人から見れば「もつたいない」と思われることであつても、「キリスト・イエスを知っていることのすばらしさ」や「自分の願以上には神様に従う道にある幸せと平安の確かさ」が、私の天秤では勝っているからなのです。

人生の中には、変えたり諦めたりしなければならぬこともあります。それが何のためであるかに揺るがない意義や目的を見出せるなら、しかも神様の思い聖書に語られていることと重なっているなら、人に何と言われるか、どう評価されるかに左右されない生き方を貫けるのだと思います。

クリスチャンの生き方に対する「どうして？」が、家族や友人、周りの人のイエス様との出会いに繋がりますように…と心から願います。





暮らしの  
くすりばこ



《今月の処方箋》

◆秋の紫外線対策◆

風や空が秋らしくなってきました。真夏が終わると、しばしの過ごしやすい季節です。秋は行楽シーズンでもあり、屋外で過ごすことが多くなります。なので、実は夏と同じくらい紫外線には注意が必要です。

9月～10月の紫外線量は、真夏の40～70%だそうです。半分だからと言って侮るなかれ！降り注ぐ紫外線量が半分であっても、2倍長い時間屋外で過ごせば、皮膚を中心とする体へのダメージは同じになるのです。

まだまだうしはらぐ、帽子や日傘、日焼け止めや保湿といった紫外線対策を怠らせずに過ごしましょう。

それと合わせて、旬の食べ物で体の内側からのケアもできるといいですね。

秋と言えば「さつまいも」「栗」。さつまいもには、日焼けのダメージケアをしてくれるビタミンCやβカロチン、ビタミンEが豊富な上、皮の赤紫はポリフェノールの一種で、活性酸素から体を保護し、しみ予防にも役かいます。栗のビタミンC含有量は、木の実でトップクラス（国産のもののがベター）。渋皮に含まれるタンニンは、色素生成を抑える働きもします。

秋になると食べたくなる「さつまいもご飯」や「栗の渋皮煮」…旬のものをいただくって、理にかなっているんだなあと改めて思います。

美味しいさつまいもご飯のレシピをご紹介しますので、ぜひお試しください。

《材料》

- 米2合 + もち米1合
- さつまいも 200g (適当な大きさに)
- 酒 500CC + 水 535CC
- みりん 大1
- 塩 小1

※材料を合わせて炊く※



路上生活者支援

山谷（やま）農場

見つけたら...

未使用切手や書き損じハガキ、見つけたら、ぜひお寄せください。少量でも構いません。

お米は9月いっぱい受付を休止します。来月から、宜しく願います。

〈連絡先〉 藤田 寛

☎ 090・1436・6334

FAX 042・786・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

〈物資送付先〉 小海キリスト教会、または、南牧村社協へ。〒384-1302南牧村大字海ノ口966-15南牧村社会福祉協議会 山谷農場

\*着払い送付は遠慮ください。

\*土曜日の配達指定でお願いします。

山谷農場事務局（藤田）小海町芦谷ヒルサイドコーポ一〇二号室 毎週土曜  
カンパ：〒振替〇〇二四〇・四・五三七九六